

TEACHING ENGLISH NOW

英語教師のための情報誌

特別増刊第3号

2011 SANSEIDO

特集 

ことばを使う力を育てる

2012（平成24）年度改訂版 *NEW CROWN* について③



TEN 特別増刊第 1,2,3 号は、新しい 24NC の内容を詳しくご案内します。
本誌では、24NEW CROWN を 24NC と略記することがあります。

CONTENTS TEN 特別増刊第3号

NC つれづれ草

- | | | |
|----|----------------------------|--------------|
| 01 | フィンランドで英語
なぜ教室でデジタル教科書か | 北川達夫
堀田龍也 |
|----|----------------------------|--------------|

特集 ことばを使う力を育てる

- | | | |
|----|---|------|
| 02 | 4 技能の総合と統合をめざして | 根岸雅史 |
| 04 | 概要をとらえるリーディング
BOOK 1, LESSON 7, USE Read の指導をめぐる | 日臺滋之 |
| 06 | 基本的な技能を習得するための言語活動 | 今井裕之 |
| 08 | 自己表現としてのスピーキング活動
活動の工夫とステップづくり | 田中武夫 |
| 10 | ライティング活動をどう積み上げていくか | 工藤洋路 |
| 12 | 「音読」の先にあるもの
統合的な言語活動でことばの力を育てよう | 山本崇雄 |
| 14 | デジタル教科書とその魅力
『NEW CROWN 指導用デジタルテキスト』の使い方 | 杉本 薫 |

教科書製作現場の風景

- | | | |
|----|-----------------------|------|
| 16 | 志岐デザイン事務所・斎藤清史さんの机上から | 斎藤清史 |
|----|-----------------------|------|

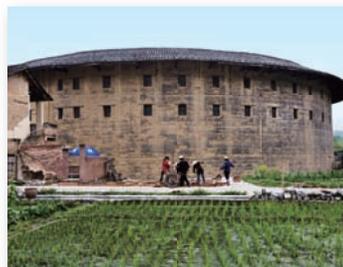


表紙写真について

Tulou in Fujian, China

中国福建省の南西部、永定県にある土楼（トゥーロー、tulou）。巨大な多層の円形集合住宅で、数十家族が居住する。長い歴史をもつ伝統建築物だが、20 世紀に建てられた新しいものもある。21 世紀の現在では、中国内外からのツアー客も多く、インターネットが使えるホテルや民宿と化した土楼も。2008 年、ユネスコ世界文化遺産に登録された。

[24NC では、3 年のレッスン 5, USE Read で、メイリンがこれを紹介しています] (編集部)



写真：© アフロ

24NC はこんなに変わった ③

生まれ変わった新しい 24NC の姿を、3 回に分けてご案内します。
詳細については、第 1, 2, 3 号 2 ページ以下の各編をご覧ください。

- ★ USE Read (各レッスン中のリーディング教材) を新設。リーディングの活動を飛躍的に充実させ、高校英語との接続を図りました。
- ★ 3 段階の言語活動 (Drill, Practice, USE) を設定。繰り返しによる知識・技能の確実な定着を図りました。
- ★ 各レッスンの Practice に、「聞き」「話し」「書く」活動を配置。コミュニケーション能力の育成を図りました。
- ★ さらに USE の段階では、4 技能の総合と統合を実現。言語活動の総まとめを行いました。
[Read, Listen, Speak, Write, Mini-project]



北川 達夫 (日本教育大学院大学)

フィンランドで英語

ディゲスティベ?——道行く人に商品を見せ、その英語の商品名を読んでもらう。フィンランドで、そのようなテレビCMがあった。ちなみに商品名は「digestive」。フィンランド語は、綴りどおりにローマ字読みする言語なので、「ディゲスティベ」になるのだ。

フィンランド語はウラル語族に属し、英語とは似ても似つかぬ言語である。では、フィンランド人は英語が不得意かという、そうでもない。最近では、ほとんどの人が仕事に必要な程度の英語はできるようになっている。なぜか?

フィンランドで英語ができないと、大学の授業についていけない。先生も学生も外国人比率が高く、多くの授業が英語で行われているからだ。また、学歴を問わず英語ができないと、会社に就職できない。よほどのローカルな商店でもない限り、海外と日常的な取引があるからだ。つまり、進学するにも就職するにも英語が必要不可欠なのである。

この必要性がフィンランド人の英語力を支えている。だが、油断すると、冒頭の「ディゲスティベ」のように地金が出てくるので楽しい。私はフィンランド人の英語なら、聞けばすぐにわかる。フィンランド語独特の発音法則が見え隠れするからだ。

NEW CROWNで好きなのは、1年生のLESSON 1から、日本人と中国人が英語で会話しているところである。これこそまさに現在の世界の実態だろう。世界中の多様な国の多様な人々と、お互いにとっての外国語である英語で意思疎通する。実にグローバルである。その方針を創刊当時から貫いているのがNEW CROWNである。

NEW CROWNの世界では、あの日本的発音と、あの中国人的発音の英語が飛び交っているのだろうなあ——などと想像するのも、また楽しい。



堀田 龍也 (玉川大学)

なぜ教室でデジタル教科書か

新学習指導要領では、知識・技能を確実に習得させ、習得した知識・技能を活用する学習活動、とりわけ言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力を育てることになっている。この考え方を受け、新学習指導要領の外国語では、文法事項についてコミュニケーションを支える知識・技能と位置付け、これらをしっかりと習得させ、言語活動の充実により実際に活用することを通じて、コミュニケーション能力を育成していくことになる。

標準授業時数が増えているとはいえ、指導する語数だけ見ても900語程度から1200語程度に増えているなど、習得すべき知識・技能の量も増えているのだから、外国語の指導がのんびりできるようになるわけではない。まして、これらの知識・技能の習得に止まっていたら、新学習指導要領の趣旨を反映できていないといえない。習得した知識・技能を活用する学習活動に多くの時間を割かなければ、コミュニケーション能力など身に付くはずもない。

そこでデジタル教科書の登場となる。デジタル教科書は、教科書に完全に準拠している。教科書の見開きから、必要な説明教材や練習教材を取り出し学習活動に誘うことができる。フラッシュカードはデジタル化されて同梱されているし、絵図はクリック1つで大きくなる。音声は本文をクリックするだけで必要なだけ提示することが可能である。もちろん、紙で提供されてきた従来の教材も同時に市販されるから、教員や学校の実状に応じて選択すればよい。これまで同様、板書は必要であるし、生徒に書かせる指導がなくなるわけではない。

デジタル教科書は、得意な教員だけが使う教材ではなく、すべての教員が日常の授業において、生徒にしっかりと学力を保证するために用いる教材なのである。

特集 ことばを使う力を育てる

4技能の総合と統合をめざして

根岸雅史 (東京外国語大学)



NEW CROWN はなぜ Reading に重きをおくのか

「中学の英語検定教科書には、読むことの言語活動はない。」これが、教科書作りに携わってみて、私自身が気づいたことだった。各課に評価規準を作ってみると、他の3技能には、個別の言語活動を割り当てることができるが、読むことの明示的な言語活動は教科書には存在してこなかった。

中学の検定教科書の読むことと言えば、いわゆる「本文」があった。しかし、この役割は明確ではない。もちろん読むための素材提供という役割もあるが、それ以外にも、新出言語材料の提供や音読素材の提供、パート練習の素材提供などの役割もある。また、従来の「本文」の多くは会話文であったために、そもそも「読むべきもの」かどうかという議論もあった。

さらに、こうした「本文」が教師のオーラル・イントロダクションなどにより導入されているために、そもそも生徒が自力で英文を読むという機会が奪われてきた。教師があれこれ手助けをして英文を理解したような感覚を生徒に持たせるのは、一見親切な行為に見える。しかし、この親切な行為のおかげで、生徒はある日突然（それは、模擬試験であったり、入試であったり、教室外の現実生活であったりするが）、英文と自力で取り組まなければならない。これが本当に「親切な行為」なのだろうか。

こうした問題意識から、24NCでは、新出文法の導入に関わる英文とは別に、純粋に読むためだけの英文を提供することとした。これがUSE Readである。新出文法の導入はこの前に終わっているので、学習者はここでは読むことに集中できるはずで

ある。もちろん、生徒が自立的に読めるようになるための手立ては講じてある。それが、Pre-Reading, In-Reading, Post-Readingといった段階的な活動である。こうしたまとまった英文に自力で向き合う経験が、入試や現実生活での読みに向けての準備となるのである。

2年 LESSON 8のUSE Readでは、India, My Countryという新聞記事を読むことになっている。Pre-Readingでは、レッスン冒頭にあるとびらの写真を見て、インドではどのような言語が話されているかを話し合う。次のIn-Readingでは、この新聞記事を読みながら、キーワードをもとに、どのような場面でのどのような言語が話されているかを読み取る。そして、最後のPost-Readingでは、インドで複数の言語が使い分けられている理由を話し合うことになっている。さらに、こうした自立的読みを支えるものとして、Words, TipsやCheckが用意されている。これらの仕掛けは、すべて学習者が自力で英文を読む力をつけるためのものである。

統合的な活動とその意味

さて、ここまでは読むことを中心に見てきた。しかし、これは4つの技能のうちの1つの技能に過ぎない。4技能という観点から日本の英語教育を見た場合、そもそもそのバランスはとれていたであろうか。中学の英語の授業で言えば、聞いたり話したりという活動にはかなり時間が割かれていたと思われるが、書くことには必ずしも十分な時間が割かれていたとは言えない。また、定期試験などでは、授業でやっているほどには話すことに焦点が当たることとはなく、また、書くことも教室内の言語活動とは関連性の薄い和文英訳などの問題が出ていた。

新学習指導要領では、技能の「総合」や「統合」ということが繰り返し強調されている。たとえば、『中学校学習指導要領解説外国語編』における「2 外国語科改訂の趣旨」には、次のように書かれている。

○ 自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。(下線筆者)

ここから明らかなのは、単に4技能をバランスよくやるだけではなく、有機的に技能を関連づけることが求められているということである。

これまでは、英語教師はともすれば技能を単独で捉えてきていた。これは一種の職業病かもしれない。しかし、実際の言語コミュニケーションを考えてみればわかるように、技能が完全に独立していることの方が少ない。会議で、資料を読み、メモを取りながら発言したり、テレビのニュースを見ながらその内容について話したり、メモを読みながらスピーチをしたり、といった具合である。

それぞれの技能を独立に手当てすれば、複数の技能を関連づけて用いることはできるようになるのではないかという考えもある。しかしながら、それは必ずしも正しくないだろう。全体は部分の総和よりも大きい。聞いたことについて自分の意見を言うのであれば、英語の音声を理解しながら、自分の考えを持ちそれを英語で表現しなければならない。誰かの話を聞いて、メモを取るの、リスニング・テストで内容理解のテストをしたり、単にメモを書いたりするのはわけが違う。

こうした認識に基づき、24NCでは、総合的・統合的言語活動をUSEにおけるMini-Projectというセクションにおいて実現している。再び2年のLESSON 8を見てみよう。ここでは、「世界の国を知ろう」というMini-projectがある。1のListenでは、インドと日本についての発表を聞いて、メモを取る。そして、2のSpeakでは、そのメモをもとに話す。次に、3のWriteでは、自分の行きたい国について調べて、メモを書く。最後の4のSpeakでは、3で作ったメモをもとに発表をする、となっている。Mini-projectにおける各技能の言語活動はばらばらに存在しているのではない。聞くこと・話すこと・書くことといった技能が、有機的に結びついているのである。こうした言語活動に取り組むことで、現実の言語コミュニケーションを実感することができるのである。

USE Mini-project
LESSON 8 総合

世界の国を知ろう ※世界の中から興味のある国を選んで発表しよう。

1 聴く 授業が、インドと日本について調べたことを発表します。
 (1) 発表を聞いて、下の表の空欄にメモを取ろう。

国	インド	日本
地域		
言語		
通貨		

② もう一度聞いて、友達の話に出てくる、それぞれの国に特有の事物を2つずつ書き取ろう。

国	インド	日本
特徴	1. 2.	1. 2.

kimono
着物

curry
カレー

Taj Mahal
タージマハール

sari
サリー

sushi
寿司

Tokyo Sky Tree
東京スカイツリー

③ もう一度聞いて、内容を確認しよう。

3 書く あなたが行ってみたい国はどこですか。行きたい国について調べて、そして、2の発表を参考にしながら、英語でメモを書こう。

国	
地域	
言語	
通貨	
特徴	

4 話す 上のメモをもとに、自分が行きたい国について英語で発表しよう。そして発表の際は、**IDEA BOX**を参考に、文をつけ加えよう。

IDEA BOX

I am going to talk about the USA. 私はアメリカ合衆国について話します。

Many languages are spoken in this country. この国では多くの言語が話されます。

Switzerland is visited by many tourists from overseas. スイスは多くの海外旅行者に訪れます。

Korea is known for its great nature. 韓国は自然で知られています。

Sushi is one of the most popular Japanese foods. 寿司は最も人気のある日本の食べ物です。

I want to visit Mongolia someday. 私はいつかモンゴルを訪れたいです。

① 友達の発表を聞いてメモを取ろう。
 ② 一行きたくった国の特徴を、自分のメモをもとに英語で書こう。
 ③ 書いた英文を、その国について発表した人に持せて、内容を確認してもらおう。

BOOK 2 LESSON 8
USE Mini-project

TEACHING ENGLISH NOW 特別増刊号 VOL.3 2011 03

SPECIAL

NEGISHI MASASHI

HIDAI SHIGEYUKI

IMAI HIROYUKI

TANAKA TAKEO

KUDO YUJI

YAMAMOTO TAKAO

SUGIMOTO KAORU

特集 ことばを使う力を育てる

概要をとらえるリーディング

BOOK 1, LESSON 7, USE Readの指導をめぐる

日 臺 滋 之 (玉川大学)



24NCの各LESSON前半にあるGETで提示される英文は、新出文法事項をできるだけ自然なコンテキストの中で提示するために用意されたものです。しかし、後半のUSE Readの英文は、生徒がまとまった量の英文を抵抗なく読めるようになるために用意されたもので、中1から中3まで段階的に英文の量が増えていきます。

したがって、USE Readの英文はGETとは違った指導で扱うことが求められます。1セクション1時間という読み方を続けている限りは、まとまった量の英文を読めるようにはなりません。生徒がある程度のまとまりのある長さの英文を抵抗なく読めるようになって欲しいと思います。また、英文を1文ずつ日本語に置き換える作業をしていたのでは、「木を見て森を見ず」の例を引き合いに出すまでもなく、話の概要を必ずしもつかめるようにはなりません。生徒が読んだ内容について、その概要を相手に伝えることができたり、自分の意見を表現できるようになって欲しいと思います。以上のことを念頭に置き、USE Readの指導を考えてみたいと思います。

USE Readに盛り込まれたタスク

教科書のUSE Readには、工夫されたさまざまなタスクが用意されています。このタスクのねらいを知り、授業で活用したいと思います。

- Pre-Readingには、さし絵等から話の内容を想像するタスクなどが用意されており、これから読む準備のために役立ちます。
- In-Readingには、はじめから最後まで通して読むためのタスクが用意されています。タスクに答えながら読んだ内容を確認します。

- Tipsには、内容についての補足的な情報が書いてあります。
- Checkには、代名詞が指すものを確認するなど、正確に読むためのタスクが載せられています。GETで学習した文法事項がどこで使用されているかを見つけるタスク(Grammar Hunting)も用意されています。
- Post-Readingには、読み終えた内容について最後に確認する課題や、要約したり、読んだ内容について自分の意見を表現するタスクなどがあります。
- Tryには、選択的な扱いとして、内容を深めるタスクが用意されています。

授業の流れ—1年7課《2時間扱いの例》

1時間目：LESSON 7 USE Read p. 84

Pre-Reading (5min.)

- 読む前にバスケットボールについて生徒が知っていることを言ってもらい、生徒の持つ背景的知識を活性化する。Do you know anything about basketball? Tell me about the rules? (教師は英語で聞いても、生徒は日本語で答えても可。バスケット部に「トラベリング」などのルールを言ってもらおうとよい。第3パラグラフと関係。)

Warm-up (10min.)

- 新出語句の導入と意味の確認：(シュートするジェスチャーをしながら) How do you say this gesture in English? / (膝の上を指しながら) How do you say these parts of my body?
- 新出語句の発音練習 (flash cards)

In-Reading & Listening (20min.)

- 黙読し、概要をとらえる—各自テキストを読んで、タスクに答える。
- In-Reading 1 — 「印象に残った語句」を最初はpairで確認、次に全体に問いかけ、何人かを指名し、

言ってもらおう。→印象に残った語句が聞き取れるか CD を聞く。(ex. wheelchair basketball)

- In-Reading 2 (1) ~ (3) →最初は pair で答えを確認、次に全体で答え合わせ。→ CD を聞く。
- In-Reading 3 →最初は黙読し、各自に「バスケットボールのルール」の箇所にアンダーラインを引かせる。→次に pair で確認→最後に全体で答えを確認。ここで、Tips ①、②にも触れる。→ CD を聞く。

Reading aloud (15min.)

- 音読練習。開本し、Chorus reading → Buzz reading → Individual reading → Read and look up
- 英語の質問を 3 つ考えさせ、別紙にて提出させる。(2 時間目の Post-Reading のために、教師は回収後、英文の誤りを添削する。)

Assignment

- 宿題：各自が考えた先の質問と、さらに 2 つ質問を考え、ノートに書いてくるよう指示する。

2 時間目： LESSON 7 USE Read p. 85

Warm-up (10min.)

- 復習として、新出語句の発音練習と意味確認 (flash cards の英語を見せて、英語を言わせる、次に日本語を見て英語を言わせる。)

In-Reading & listening (20min.)

- 教科書を開き、CD を聞く。
- 黙読し、細部を読み取る (指示語の指すものは何か知る)。Check (pp.84-85) に示された代名詞が何を指すか、各自黙読し、該当部分にアンダーラインを引かせる。次に、can を使った文に下線を引くように指示する (Grammar hunting)。いずれ

も、最初は pair で答えを確認、次に全体で答えを確認する。

- 最後に CD を聞く。

Post-Reading (20min.)

- 本文の内容の復習のための音読 (Chorus reading)
- ペアで英問英答 (先生から返却された添削済みの各自の質問をペア同士で英問英答する。)
- 教科書を開き、CD を聞く。
- 音読練習 Chorus reading → Buzz reading → Individual reading → Read and look up
- 最後に、Try のタスクに challenge。日本語も可。

USE Read は、学年進行に応じて段階的に単語数が増え、英文が長くなっていきます。BOOK 1 LESSON 7 Wheelchair Basketball は 87 語ですが、2 年最後の LESSON 8 India, My Country は 188 語、3 年最後の LESSON 8 English for Me は 261 語です。

しかしながら、Pre-Reading, In-Reading, Post-Reading には、生徒が無理なく、はじめから最後まで通して読めるように、生徒の読みをサポートするタスクが用意されています。Check や Tips など活用しながら、教科書を徹底的に使いこなしていきたいものです。

The screenshot shows a textbook page for Lesson 7, 'Wheelchair Basketball'. At the top, it says 'USE Read' and 'LESSON 7'. The main title is 'Wheelchair Basketball'. Below the title, there is a short text about Mr. Kyoya Kazuyuki who plays wheelchair basketball. The text includes: 'Do you know about wheelchair basketball? Many people play it in Japan. This is Mr Kyoya Kazuyuki. He plays basketball. He is in a special wheelchair. He can move easily in it. He is a very good player. He can shoot very well.' There are two photos of wheelchair basketball players. To the right of the text, there are two reading comprehension questions: 'What are some rules of wheelchair basketball?' and 'Wheelchair basketball is very exciting. Let's watch a game.' Below the text, there is a 'Words' section with a list of words: 'chair', 'chair', 'their', 'long', 'push', 'can', 'or', 'exciting', 'game', 'look', 'look'. At the bottom, there is a 'Check' section with a list of words: 'chair', 'chair', 'their', 'long', 'push', 'can', 'or', 'exciting', 'game', 'look', 'look'. The page number is 85.

BOOK 1 LESSON 7
USE Read

特集 ことばを使う力を育てる

基本的な技能を習得するための言語活動

今井裕之 (兵庫教育大学)



基礎的・基本的な技能を育てる

ことばを使う力を育てるためには、基礎的・基本的な技能の習得は欠かせません。ただし、「基本的な技能」は「ことばを使う力」の前段階の練習ではありません。むしろ「基礎的・基本的な技能でも、ことばを使うことには違いはない」と生徒たちが自覚できる言語活動となるよう GET の Drill と Practice はデザインされています。「ことばを使う」感覚が GET の活動を通して培われ、USE につながるよう工夫した点についてご紹介します。

小学校外国語活動の学習指導要領解説では、コミュニケーション能力の素地の養成が自転車に乗ることに喩えられています。

自転車の構造や乗り方についての知識がどれだけあったとしても、実際に自転車に乗らなければ、自転車に乗ることができないというのと同じである。(文部科学省(2008),『小学校学習指導要領解説外国語活動編』東洋館出版)

大胆な喩えですが、自転車という最初はどう扱ってよいのかさえ分からない物を、使えるように試行を繰り返し、自分の体の一部になるまで取り込んでいく過程は外国語学習と似ています。小さな自転車に補助輪をつけ、見様見真似でペダルに足をかけ、大人に押ししてもらい、なんとかハンドルを握んで、一緒に走るお兄さんお姉さんに懸命についていこうとする子どもでも、「自転車に乗っている」には違いありません。Drill や Practice は補助輪のようでありたい。教師は後ろから支える大人と一緒に走る兄弟のようでありたいものです。

GET と USE の調和

自転車の喩えを続けるならば、GET で行う Drill は、平坦な広い場所で倒れないように自転車を走らせることでしょう。ことばの意味や仕組みを理解するよう何度も発話練習をします。一方、Practice は、自分の進みたい方向に意図的に舵を切りながら走ることです。意図的にことばを選び、伝えたい意味を考える活動と言えます。両者はねらいが異なりますが、いずれも繰り返し練習することで文法事項の定着・習得を図る点では共通しています。

Drill で言語形式に習熟し、Practice で意味や意図を実感するという指導の流れは、一般的で有効な指導手順ですが、機械的な発話の連続に飽き、モデル文をなぞるのが精いっぱい、そのため自己表現活動(USE)までたどり着かないなどの課題も指摘されています。Drill と Practice をスムーズにつなぐにはどうすればよいでしょうか。

Drill の指導で模倣を活性化する

教室独自のコミュニケーションの特徴を活かすと、Drill や Practice を少しずつ「自転車に乗っている」感覚に近づけることができます。活動形態(個人、ペア、グループ、クラス全体)が多様で、表現方法(話しことば、書きことば、身体表現、写真など視覚非言語表現)が同時・多層的な教室の特徴を活かして、どんどん相手を替えながら新鮮な気持ちで発話し合ったり、話したことを書いて確かめたり、24NC では繰り返しを有意義にする工夫を強化しました。

Drill は 18NC で言えば Check It にあたります。Check It は、まず「聞いてみよう」、それから「話

してみよう」と展開されていましたが、24NCのDrillでは、「聞く」の次には「繰り返す」「言う」「書く」活動が加わり、発話の機会が多くなります。基本的な指導手順は以下の通りです。



- 1 Listen イラストで意味を確認しながら英文を聞く
- 2 Repeat 英文を聞き、模倣して発話する
- 3 Say キーワードのみを聞き、英文を再現して発話する
- 4 Write 英文を書き取る

イラストが補助輪になるよう配慮しつつ、「言う」では模倣より一歩進めて、意味を意識しての発話が求められます。一斉指導の後、ペア活動で相手を見て発話するだけでも意味の実感が変わります。最後は書き取りでより正確な理解を確認します。このように18NCよりも丁寧な指導が可能なデザインに変更されています。

Practice の指導で模倣から脱する

外国語学習において模倣の重要性は言うまでもありませんが、模倣するのは「言語」だけではないことを今一度確認すべきでしょう。自転車に乗る兄妹を真似て自転車を漕いでいる時、子どもは、倒れないように進むことを第一の目的にしているはずです。倒れない（コミュニケーションが取れる）ために、前方を見て、道の状況に合わせて操舵することを少しずつ学んでいくように、Drillで言語形式への習熟を図りつつ、Practiceでは、以下のように、3技能を統合して展開することで、表現を選択し、意味・意図を伝えることを学びます。

- 1 Listen ターゲット文法を含む英文を聞いて理解する
- 2 Speak Listenの英文や内容を参考に対話する
- 3 Write Speakで話し合った内容を書いて整理する

繰り返しターゲット文に触れながら、ことばを使う実感を得られるよう、3つの活動のトピックを揃

BOOK 2, LESSON 2, Part ②

LESSON 2

Practice

1 Listen スミス先生が、週末に会った人たちの様子を話します。彼女たちは、それぞれ何をしていたでしょうか。イラストを選んで、()に記号を書き入れよう。

1. Miho () 2. Yuko () 3. Nami ()

Ⓐ

Ⓑ

Ⓒ

2 Speak ペアやグループで、昨日の夜にしたことを話してみよう。まず、自分が何時に何をしていたかを話し、そのとき相手は何をしていたか、例にならって質問しよう。聞いたことをメモしよう。(→TV)

Ⓐ: At nine last night, I was taking a bath.
 What were you doing at that time, Koji?
 B: I was watching TV.
 A: I see. You were watching TV at nine.

3 Write 例にならって、2で話した内容をまとめて書いてみよう。

Ⓐ When I was taking a bath at nine, Koji was watching TV.

Word Corner — いろいろな動作

play video games	study	surf the Internet	talk on the phone
eat dinner	take a bath	brush my teeth	sleep

● 例にならって書いてみよう。
 Ⓐ The boy is playing video games.

Ethen 15

えて一貫性のあるタスクになるよう心がけました。

一例を挙げてみましょう。この活動では、過去進行形を用いて自分と相手が昨晚何時に何をしていたかを尋ね合います。尋ねた内容をメモしながら、聞き手は“I see. You were watching TV at nine.”と相手の発話を自分のことばで言い直します(リボイスと呼ばれます)。このような友達との相互行為を促すのもPracticeのキーポイントです。

ただし、個人の思考や感情の表現を求めると、活動中2つのギャップが顕在化します。「自分の思考と表現力のギャップ」「自分の表現と相手の理解力のギャップ」です。それらのギャップを埋めるため、Practiceで使える語いをWord Cornerで取り上げています。Word Cornerを話し手と聞き手の双方が活用し、ギャップを捕えるよう配慮しました。

おわりに

文法項目への習熟と、限定的状況での言語使用が、GETで磨く基礎的・基本的な技能に違いはありません。そのためにも、「コミュニケーションを取れている実感」を支える補助輪として、DrillとPracticeが一役買えたらと願うばかりです。

特集 ことばを使う力を育てる

自己表現としてのスピーキング活動 活動の工夫とステップづくり

田中 武夫 (山梨大学)



スピーキング活動に自己表現を取り入れる

授業でスピーキング活動を行ってみても、生徒が恥ずかしがって話さない、話すことがなかったり英語表現がわからなかったりして話そうとしない、といった経験のある先生方は多いかと思います。では、どのようにすれば、生徒を積極的にスピーキング活動に取り組ませることができるのでしょうか。その解決策の1つとして、スピーキング活動の中に自己表現を取り入れてみるのが考えられます。

自己表現とは、自分のことや自分の考えや思いを他者に伝えることを指します(田中・田中, 2003)。生徒自身に関する情報を表現させれば、「自分のことを相手に伝えたい・相手のことを聞いてみたい」と生徒に思わせ、情報のやりとりに価値を感じさせることができます。また、自分に関することなので、表現内容は生徒の中にすでにあり、時間をかけずに活動を始めることができます。

では、自己表現をスピーキング活動に取り入れる際には、何に注意すればよいのでしょうか。ここでは、「スピーキング活動の工夫」「言語活動内のステップの工夫」の2つについて見てみましょう。

スピーキング活動の工夫

英語授業の中で行われるスピーキング活動は、特定の文法を使わせる焦点化された(focused)活動と、特定の文法を必ずしも使わなくてもよい焦点化されていない(unfocused)活動に分けられます。ここでは、前者の活動を例に考えてみます。

焦点化されたスピーキング活動の主な目的は、学習した文法を使って相手にメッセージを伝えることができるようにすることです。つまり、その文法に

コミュニケーションを支える働きがあることを、自分のことを表現させる中で生徒に実感させることです。

そのためには、まず、私たちはスピーキング活動そのものを工夫することが大切です。自然な文脈の中で、生徒が積極的に自分のことを表現してみようと思える魅力的な活動にするためには、活動にいくつかの条件が必要となります(表1を参照)。

第1に、活動内容が生徒にとって興味のもてるものかどうかです。サッカーボールとテニスボールの大きさを比較させるより、微妙な年の差のある実際の先生の年齢を予想させる方が興味を引き出します。

第2に、活動での言語使用にメッセージを伝える明確な目的があるかどうかです。1年間の思い出を単に話すより、帰国するALTの先生にお礼を伝える目的で思い出を話す方が、生徒の目的意識は高まり、活動に対して積極的になることができます。

表1. よい言語活動の条件

活動の条件	よくある例	よい例
① 生徒が興味をもてるか?	サッカーボールとテニスボールの大きさを比較しよう	年の差が微妙な、学校内の先生の年齢を予想し発表しよう
② メッセージを伝える目的があるか?	過去形を使って1年間の思い出を話そう	9月に帰国するALTのジョン先生にお礼を伝えよう
③ 結果が求められているか?	友達とサッカー、テニス、野球のどれが好きかインタビューしよう	サッカー、テニス、野球のグループ内の人気度を順に並べよう
④ 実社会と関係しているか?	「私は英語を勉強する予定です」を英語にしよう	be going to を使って、夏休みの予定について話し合おう

(Willis & Willis, 2007 をもとに筆者改変)

第3に、活動を行った結果が求められているかどうかです。単に人気スポーツをインタビューさせるだけでなく、インタビューした結果をもとにグループごとに人気順を報告させれば、生徒は達成感を感じるでしょう。

第4に、活動が実社会と関係しているかどうかです。“be going to”を使って自分の夏休みの予定を伝える方が、日本語を英語に訳すよりも、実社会で役立つ価値ある活動と感じるでしょう。

このように、生徒を、学習した文法を使ったスピーキング活動に取り組ませる際、どのような目的や場面のもとで表現させれば、生徒にとって魅力的な活動になるかを考え、工夫することが大切です。

言語活動内のステップの工夫

スピーキング活動を授業でうまく活用するには、どの生徒も無理なく活動に参加でき達成感をもてるよう、活動の前後に適切なステップを組む必要があります。例えば、(1)これから行う活動のモデルを提示し、使われる表現を確認する。(いきなり活動に入らず、生徒に活動の目的や内容を具体的にイメージさせます。)(2)モデルで使われた表現をしっかり練習する。(練習は、生徒が自信をもって活動に取り組ませるために重要です。)(3)モデルの内容を参考に、自分のことを英語で表現させる。(4)活動後、発表したことをノートに書かせる。(口頭でやりとりしたことを書く作業を入れることで、より確実に定着を促します。)(5)教師や友達からのフィードバックを返す。(表現したことに対しフィードバックがあれば、客観的に表現や内容を振り返り確認することができます。)

スピーキング活動の具体例

では、自己表現を取り入れたスピーキング活動の具体例を見てみましょう。スピーキング活動には、形式的にみて、次のようなタイプがあります。(1)会話のような対話型(dialog)か、スピーチのような一方向型(monolog)、(2)活動前に原稿を準備するような計画型(planned)か、即興に近い非計画型(unplanned)です。

24NCには、これらの異なるタイプのスピーキン

BOOK 1, LESSON 7, USE Speak

何ができますか？

●友達に、できること・できないことをたずねて、無人島と一緒に行く仲間を探そう。



1 由希とジョンの会話を聞いて、聞き取った内容をメモしよう。

	できること	できないこと
 由希		
 ジョン		

○由希はジョンに何とたずね、ジョンはどう答えていたか、確認しよう。 (make a fire 火をおこす knife ナイフ)

2 あなたは無人島に行くことになりました。ボートは4人乗りなので、あと3人まで一緒に行くことができます。一緒に行く仲間を探そう。

(1) どのようなことができる人と一緒に行きたいですか。3つまで✓を入れよう。

cook well climb trees swim fast
 make a fire use a knife play the guitar

(2) (1)で✓を入れたことを表に書き、できるかどうか友達に聞いてみよう。できると答えたら、その友達の名前を表に書き入れよう。

Can you ~?	できると答えた友達の名前

グ活動が準備されていますが、ここでは、対話型で非計画型のスピーキング活動である BOOK 1, LESSON 7にある USE Speak を例として取り上げます。この活動は、助動詞 can を使って友達にできること・できないことを尋ね合うものです。上述した言語活動とステップの工夫が、うまくデザインされています。

例えば、単に自分のできる(ない)ことを言わせるのではなく、無人島と一緒に行く仲間を探すために、自分ができる(ない)ことを伝え合うという明確かつ興味のもてる目的があります。実社会でもありえる、ある目的のために一緒に行く仲間を探し出すという、結果を求める活動です。したがって、学習した助動詞 can を必然的に使うことになり、意味のある文脈の中でその文法の働きを実感させる活動となります。また、すぐにスピーキング活動に入るのではなく、活動のモデルとなるリスニング活動から始まり、スピーキング活動を終えた後には、表現したことを書く活動も準備されています。

このように、生徒にとって魅力的で価値あるスピーキング活動を工夫し、自信をもって取り組めるステップをうまくデザインしていきたいものです。

【参考文献】

田中 武夫・田中 知聡 (2003), 『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』大修館書店。
 Willis, D. & Willis J. (2007), *Doing Task-based Teaching*. Oxford University Press.

特集 ことばを使う力を育てる

ライティング活動を
どう積み上げていくか

工藤 洋路 (東京外国語大学)



ライティングの重要性

『中学校学習指導要領解説』(文部科学省)によると、新課程では、授業時間数が増えるが、指導すべき語数が900語から1,200語程度に増加した以外は、特に指導事項を新たに追加していない。つまり、これまでの指導事項についてさらに定着を図ることが望まれているとしている。定着にはアウトプットの活動が不可欠であるため、スピーキングと並び、ライティングはさらなる指導の強化が期待できる。

では、ライティング活動はなぜ重要なのか。まず、書くことによって読み手との間に生まれるコミュニケーションが可能になり、英語を実際に使うという体験をすることができることは言うまでもない。このほかに、ここでは2点、ライティングの重要性を提示したい。

1点目は、書くことで、生徒が英語の言語形式に対して深く考えるようになることである。生徒たちは書きながら、綴りは正しいか、主語に対する動詞の形は適切か、名詞は単数形か複数形かなどを、少なくとも話しているときよりも、じっくりと、そして分析的に考える。書きながら、「主語がIで、昨日のことを述べているから動詞はwasだな」とか、「stayの過去形は見たことがないけど、同じ(a)yで終わるplayはplayedだからstayedかな」といったように、ルールを確認したり、ルールに対して仮説を立てたりすることで、英語の言語形式に対する意識を高めることができる。意識が高まると、理解も深まり、定着へとつなげることが可能になる。このようなプロセスをとおして、自らの学習を見つめることができる自立した学習者を養成することも可能になる。

書くことの重要性の2点目は、自動化の促進である。たとえば、過去形を学習している中で、「昨日野球をした」という意味を表す英文と、「3日前、学校の近くの公園で、部活の先輩と野球をした」という意味の英文を書くとする。前者では動詞の過去形を作ることに十分な注意を向けることができるため、正しく過去形を使うことができる可能性が高い。しかし、後者では、過去形の部分よりも、その他の内容をどう英語で書き表すかに、意識の大半を向ける必要がある。過去形への意識が薄い中で、正しく過去形を使えるかどうかは、その処理が自動化されているかどうかにかかってくる。自動化されていない場合は、負荷が高い後者のような場合は、現在形(原形)を書いてしまうなど、過去形の部分に間違いが起る可能性が前者よりもはるかに高くなる。

簡単だと思われる事項でも、実際に英文を書き始めると、文の先頭を大文字にすることなども含めて、多くのことを同時に意識する必要が生じる。そのような状況の中でも正しくターゲットの文法や語いを使えるようにするために、自動化の促進が不可欠になるが、それを実現できるのは、負荷をさまざまに調整することができるライティングであると言える。

ライティング活動に関わる負荷

次に、ライティング活動の負荷について、もう少し詳しく考えてみる。上で紹介したように、書くべき内容が増えると、当然のことながら、活動の負荷は高くなる。また、定着が不十分な言語材料を使うことが求められる活動も負荷が高い。加えて、書くべき内容を自ら考える必要がある場合は、さらに負荷が高くなる。つまり、「どう(How)書くか」より以前の「何を(What)書くか」についても生徒に委

ねられると活動の難易度は上がることになる。内容(What)と言語材料(How)の2点の自由度をどう調整するかによって、ライティング活動の難易度が変化する。

たとえば、教科書のGETには、ページの下にDrill活動があるが、ここではターゲットの言語材料は固定されており、さらに、イラストで内容も与えられているので、WhatもHowも制限されている。つまり、自由度が低いため、生徒への負担は軽い。学習したばかりの言語材料の練習には、このように制約がある中での学習が適している。

学習が1段階進むと隣のページのPracticeに取り組むことになるが、この中のWriteでは、自分のことについて書くことが求められる場合が多くなり、内容的な制約が少し緩くなる。つまり、Howは固定されているが、Whatの部分の自由度が高くなることによって、Drillよりも活動の難易度が上がる。ここで、Whatの部分を考えるのに注意を注ぎすぎて、ターゲットの言語材料を使いこなせない場合は、上で述べた「自動化」がなされていないことが考えられるので、Drillに戻るか、Whatのヒントを与えてあげるなどのサポートが必要になる。

このように、教科書では、書く上での負荷を徐々に上げていくような手順で活動が構成されているので、順を追って活動に取り組むと効果的な学習が期待できる。

文と文とのつながりを意識したライティング活動

さらに段階が進んだライティング活動を次に見ていく。各学年で数回設定されているUSE Writeでは、書くべき内容(What)と使うべき文法や語い(How)の制約が少ない活動になっている。つまり、活動の難易度(負荷)は高い。GETのDrillやPracticeと異なり、ここでは複数の英文を意味的につなげて書くことも求められる。学習指導要領では、「文と文とのつながり」と言われているところである。GETでの活動と比べて、すぐに英文が作れないことを想定して、ここでは、3段階程度のステップを設定している。

1年生のLESSON 9のUSE Write (p.111)を例にとってみる。最後のステップの3を見ると、3

文程度の英語を書くことが目標になっていることがわかる。この3文を導くのが、ステップ2の質問である。これはステップ1のモデル英文の理解確認の役割を担っていると同時に、ステップ3で書く内容(What)を引き出すための質問にもなっている。

「文と文とのつながり」の観点でこの質問を見てみると、①Where did Jessica go?は、全体のトピックを設定するための質問であり、②What did she do there?は、指示詞のthereがあることから、①と意味的にも文法的にもつながっている。③Did she have a good time?は、もちろんDid she have a good time (there)?のことで、同じく意味的にも文法的にもつながっている。同時に、学習指導要領解説で述べられている「身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと」に該当し、出来事や体験という客観的な事実に対して、考えや気持ちを書いて意味的に文と文をつなげていくという文章構成がここでは想定されていることがわかる。

このことを踏まえてステップ1のモデル文章を見ると、1文目はトピック設定であり、2文目では、ステップ2の②と同じくthereで文と文をつなげており、3文目も4文目もthereが隠れている。内容的にも、astronautやspaceといったように1文目でトピックとして設定した「宇宙センター」に関する単語が並んでいる。同じテーマに属する単語を使っていくことも文と文を意味的につなげる手法となる。そして、5文目は「気持ち」を書いており、それまで書いた事実に対するまとめの文としても機能している。

このようにモデル文を捉え、単に生徒にそれを参考にして書くようにと助言するだけではなく、それぞれの文の役割を前後の文との関連で見抜いていくことによって、自分のことについても、文と文とのつながりがある英文が書けるようになることが期待できる。USE Writeでは、ステップを後ろからたどって、最後のステップで書く際に必要な表現や文章構成に対するヒントを、それぞれのステップで拾い出して生徒に提示していくと、効果的な指導が可能になる。

特集 ことばを使う力を育てる

「音読」の先にあるもの

統合的な言語活動でことばの力を育てよう

山本 崇雄 (東京都立両国高等学校附属中学校)



はじめに

中学校の教科書は、英語の4技能が分け隔てなく盛り込まれており、先生によって扱いが大きく異なる。そのため、教科書をどのように扱い、どのような活動をするかは、私たち英語教師の大きな悩みだ。その中で、多くの先生方が大切にしている活動に「音読」がある。「第1回中学英語に関する基本調査」(ベネッセ教育開発センター、2009)では、実に87.8%の先生方が授業中に「よく行う」活動として挙げている。「音読」はスポーツにたとえると、野球の素振りや、筋力トレーニングに似ている。「音読ができなくて、英語が得意になった生徒には会ったことがない」という言葉も聞く。では、「音読」の先には何があるのか。日々の練習の先に試合があるように、「音読」の先にあるものを常に意識しなければ、単なる基礎トレーニングで終わってしまう。前述の調査ではスピーチ・プレゼンテーションのような実践的な活動を「よく行う」という先生は5.1%にまで下がる。24NCでは、「音読」の先にある実践的で統合的な言語活動をMini-projectとして配置している。ここでは、2年生のLESSON 5 “My Dream”を取り上げ、「音読」の先にある活動を紹介したい。

音読の先にプレゼンテーションを

私は「音読」の活動の先に、Oral Presentationと呼ばれる教科書本文のリプロダクションの活動を置いている。具体的な指導法を紹介する。

(1) GETでのOral Presentation

GETの内容は比較的量が少ないので、基礎的なリプロダクションの練習をすることができる。右上はBOOK 2, LESSON 5, GET Part 2の絵である。



エマが職業体験の感想を述べているシーンだ。これを生徒は以下のようにプレゼンテーションする。

“Look at this picture. This is Emma. She visited the Sato family to experience farming in Japan ...”

このように、教科書の1人称で書かれたモノログを3人称で言い換えながら内容を第三者に伝えていく。最後には、“I think Emma had a great time there. I want to learn about rice farming too.”などと自分の感想を付け加えさせると、自己表現につながる。

(2) USE ReadでのOral Presentation

USE Readは主に「読むこと」を意識して作られたページなので、プレゼンテーションまで発展させるには難しいページもある。BOOK 2, LESSON 5のようなMini-projectがあるLESSONでは、Oral Presentationが教科書本文とMini-projectをスムーズにつなげてくれる。USE ReadのOral Presentationは、教科書本文の量が多いので、内容を要約して発表させるとよい。LESSON 5のUSE Readでは、久美が将来の夢についてスピーチしている。本文では、久美が「花火師」になりたい理由をFirst, ...Second, ...とナンバリングしながら述べている。右上のような表にまとめながら読

主張	Kumi wants to be a fireworks artist.	
理由 1	(First,) she thinks Making fireworks is worth doing	
理由 2	(Second,) she likes Japanese traditions.	
結論	(In conclusion,) she wants to give pleasure to everyone. So, she wants to be a fireworks artist.	

んでいくとよい。この表を元にすれば、Post-Reading のタスク「久美のスピーチを要約する英文を 30 語程度で書いてみよう」のような要約の基礎トレーニングになる。

GET, USE Read, そして Mini-project へ

Mini-project はいよいよ自己表現の実践の場である。GET, USE Read での「音読」から「プレゼンテーション」の活動が基礎となり、改めて、時間をかけて準備する必要はない。Mini-project の 1 Listen → 2 Speak → 3 Read → 4 Speak の順でステップを踏んで、無理なく自己表現につなげることができる。

1 Listen では、USE Read で要点をまとめたように、メモをしながら聞かせるとよい。First, ... Second, ... といったナンバリングに注目させるとメモが取りやすい。

2 Speak の活動では、USE Read の Oral Presentation の経験が生かされるのでスムーズに

つなげられる。理由を書くのに時間がかかる生徒には、USE Read やこのページの 1 Listen のタスクを参考にさせるとよい。

3 Read では、Task をこなしながら、次の 4 Speak につながる表現を自然に増やせるので、次に「話す」ことを意識させて読ませることが大切だ。

4 Speak では、これまでに導入した表現を IDEA BOX で再確認し、話す内容を考えさせるとよい。将来つきたい職業が決まっていない生徒には、高校で勉強したいこと、趣味でやってみたいことなど、ヒントを与えることも大切だ。

このように、24NC では、教科書本文から実践的で統合的な言語活動に無理なく指導していけるしかけがしてあるので、「音読」の次にある活動をイメージしやすい。毎授業での「音読」を素地に、Oral Presentation で表現力の基礎を育て、Mini-project で実践的で統合的な言語活動につなげていく。この流れに沿えば、英語の 4 技能を総合的に伸ばし、自己表現活動に自然につなげることができる。

USE Mini-project
LESSON 5

スピーチ「私の夢」

◎ 得意な夢や、やりたいことについてスピーチをしよう。

1 **Check** (My Dream) というテーマでスピーチコンテストが行われ、由美と寛が入賞しました。スピーチの録音を聞いて、彼らの夢をメモしよう。また、その理由を下から選んで録べよう。



I want to be _____



I want to be _____

I want to meet people from other countries.

It's a world sport.

I like languages.

Tennis is my favorite sport.

(country: country(国)の略称)

2 **Check** ① キー スピーチの準備をしよう。
(1) 下のメモに英語を書き込んで、スピーチのおおまかな内容を決めよう。

自分の夢は？
I want to _____
理由は？(2つ以上)
First, _____ Second, _____
最後にもう一度夢を言おう
So, I want to _____

② 上のメモをもとにペアでやりとりし、おたがいの夢とその理由について話してみよう。

◎ A: What do you want to be in the future?
B: I want to be a musician.
A: Why?
B: First, I like music. Second, I want to be famous. So, I want to be a musician.

3 **Check** 下の由美のスピーチ原稿を、構成に注意しながら読んでみよう。次に、英語の原稿の流れをよくするために、下の a-e の文をどこに入れるとよまくなるかを考え、() に記号を書き入れよう。

イントロ
() I'm going to tell you about my dream.
I want to be a swimming coach.
理由 1
() First, swimming is my favorite sport. ()
理由 2
Second, swimming is for everyone. ()
結論
So, I want to be a swimming coach. ()
あいさつ
Thank you.

a. I have two reasons.
b. For this dream, I will work hard.
c. Do you have a dream?
d. I swim every day. It's very hard, but it's a lot of fun.
e. I want to teach swimming to many people from children to adults.

(hard: いらいやうにがんばる、chicken: 鶏の子、the teacher: 先生、adult: 大人)

4 **Check** (My Dream) というテーマのスピーチをしよう。
(1) 左ページのメモで作ったメモに、3 を参考に情報をつけ加え、スピーチ原稿を作ろう。
(2) 原稿の準備ができたら、友達の前で英語でスピーチをしよう。

IDEA BOX

go to ~ to learn ... ~を学ぶために～へ行く
I have ... reasons. ...個の理由があります。
First, ... 第一に、... Second, ... 第二に、... Third, ... 第三に、...
Finally, ... 最後に、... In conclusion, ... 結論として、... So, ... それで、...

15 クラスの中からスピーチコンテストの出場者を選んだら、あなたはどれのスピーチを推薦しますか。あなたが推薦する人のスピーチの内容と、推薦する理由を書ってみよう。

SPECIAL
NEGISHI MASASHI
HIDAI SHIGEKI
IMAI HIROYUKI
TANAKA TAKEO
KUDO YOJI
YAMAMOTO TAKAO
SUGIMOTO KAORU

特集 ことばを使う力を育てる

デジタル教科書とその魅力

『NEW CROWN 指導用デジタルテキスト』の使い方

杉本 薫 (東京都立両国高等学校附属中学校)



はじめに

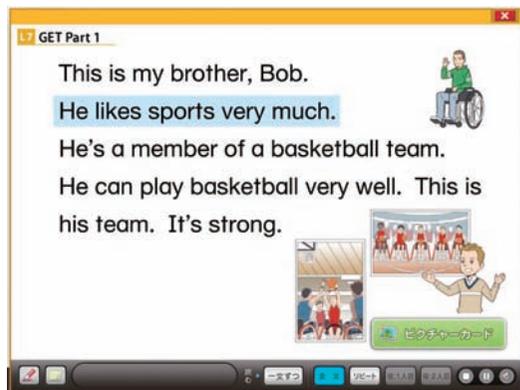
デジタル教科書『NEW CROWN 指導用デジタルテキスト』は、教科書の紙面(文章や文字、写真やイラストなど)を、電子情報ボードなどに映し出し、本文部分や写真・イラストの拡大のほか、音声の再生、フラッシュカード、ピクチャーカード、そして資料映像を提供する予定です。

生徒が顔を上げて受ける授業、先生が生徒の顔を見ながら進める授業

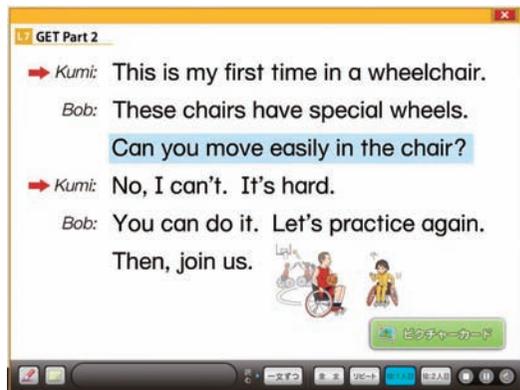
デジタル教科書というものの魅力の一端を私自身の経験から述べてみます。例えば、フラッシュカードの機能を使ってみます。メニューから選ぶだけで、下図のような単語カードを提示できます。音声を聞かせることはもちろん、意味も示すこともできます。さらに簡単に、そしてここが重要なのですが、確実にフラッシュさせることができます。私自身、ある程度のスピードと安定感(生徒の気を散らさない程度という意味です)をもってカードをフラッシュする技術を身につけるのにはかなり長い時間を要しました。今は、クリック1回ですみます。



さらにこの時、私は自分の手元を心配する必要はありません。ただ生徒の口の動きと音声に注目します。顔の表情から、自信をもって発音しているかどうか判断できます。不十分ならもう一度繰り返せばいいのです。同じことが本文の音読練習でも言えます。



まず、テキストのページと同じレイアウトですから生徒も迷いません。音声を聞かせることも、簡単な説明を加えることも、また教科書にあるドリル練習などもできます。図のように会話ベースのページでは、擬似的な会話練習も可能です。



ここまではすべて、画面を使っの指導ですから、生徒ははっきりと顔を上げていますし、教師は生徒の顔と口に注目しながら、確実に授業を進めることができます。デジタル教科書を使っていれば、テキストを開かせる時には、生徒は音読の練習を自分で始められる状態にまでなっています。後は各自のペースで練習させて、教師は点検すればいいのです。

さらにデジタルならではの効果的な使い方があります。新教材の導入や、内容理解の補強のためには、ビデオ教材が用意されています。ピクチャーカードと同じ簡単さで使えます。新しい内容のオーラルイントロダクションの情報量も画期的に増えます。教師の悩みは生徒に投げかける英語の準備に集中できます。



授業のサポートから学習のサポートへ

デジタル教科書の学習と指導の効果について、考えてみましょう。

① 音声と文字の一体的な指導

まずは音声の活用です。文字と音声とリンクさせながらの指導ができます。

② ビジュアル・イメージによる理解

画像やビデオなど、視覚に訴える指導が簡単にできます。

③ 生徒に顔を上げさせる効果

先に述べたように、生徒は画面に注目しながら練習していきます。これは、教師が生徒の顔、表情、口の動き、そして音声に集中する手助けになります。

④ 繰り返しの効果

デジタル教科書を使うと、様々な学習場面を提供

できますが、そのどれもが簡単に再現可能です。つまり、必要に応じて何回でも繰り返すことができます。絵を貼る位置にも、音声のタイミングにも気を遣わなくてすみます。

⑤ 生徒の学習サポート効果

ここまで、授業の場面での効果や利点を中心に述べてきましたが、これらはすべて次の段階にも共通するメリットです。それは、生徒が学習の方法を、自分の体験を元に授業中に確実に理解していくということです。「何を、どう練習すればいいの」ということが授業の中でしっかりと理解できていれば、生徒が自分の時間に学習する時に「やり方が分からない」ということはなくなります。

もちろん、これまでの授業と自主的な学習でもそれは可能でした。しかし、さらに、分かりやすいパターンを、繰り返し、体験的に、授業を通じて指導できる効果は絶大です。このポイントは、生徒が同じデジタル教科書を使った学習環境を手にする時には、さらに重要になります。授業の学習を自学自習に應用するというよりは、授業の中ですでにそういった学習体験を積み重ねていることになるのです。家庭学習はもちろん、パソコン室などを使った自学自習も視野に入れて考えたいことです。

おわりに

私はここまで述べてくる中で、何回も「簡単に」という表現を使いました。教師は本当に楽になるのでしょうか。残念ながら、Yesとは言えません。正確に言えば、準備や指導にかかる手間の性質が変わります。時間だけを問題にすれば、少なくなるかも知れません。

しかし、デジタル教科書ならではの留意点はあります。例えば、「生徒の画面と指導の流れへの集中を妨げない」、「手元のリモコン操作やメニュー操作に手間どらない」、「教材の提示の流れを確実に理解しておく」などでしょうか。でもこれは、よく考えてみれば、今までのアナログ教科書を主体とした授業でもやはり大切なことです。そうすると、上に述べた授業の場面と生徒の自学自習の場面を一体化するという、新次元の学習効果の大きさにこそ目を向けるべきではないでしょうか。



新しいNEW CROWNのブックデザインを担当することになり、正直「それはマズいな」と思いました。英語がわからない自分が製作にたずさわって、見やすくわかりやすい英語の教科書をつくることなんてはたしてできるのか…。

本文デザインフォーマットの決定後、しばらくは大きな進展もなくうち過ぎ（もちろんDTP作業を担当した三省堂編集部では作業が進んでいたわけですが…）、私が実作業に参加したのは09年の11月末からで、年明けには印刷所に入れないと間に合わないタイミングでした。もはや時間がありません。作業は短期間に集中的に進めて、どうにか紙面を整えることができました。心配をしていた、打ち合わせを英語でしたり、修正の指示が英語で書かれていたりという困難な事態もいっさいありませんでした。当然です。いったい何を心配していたのでしょうか。

内容がわかりやすくデザインできているか否かの判断は自分ではハッキリわかりませんが、編集者の方々がたいへん喜んでくれていて上にお礼まで言ってくれているので、問題なくできているのだととりあえずは理解をしています。ひと安心です。

完成した教科書は、イラスト満載の楽しいもので、読者である生徒たちにちょっとサービスのし過ぎでは？と思えるほど。この教科書が英語好きを生み出すきっかけになればうれしいかぎりです。生徒たちの将来の外国旅行は、英語がわからなくても十分に楽しいでしょうが、わかればもっと楽しいし（希望的観測）、なにより便利でしょう。

かなうことなら、中学1年の時に英語の授業を受け持ってくださいましたN本先生にみせびらかして自慢したい気持ちです。そしてどうか先生も、生徒たちにおもいきり自慢をしてください。（斎藤清史）

題材内容一覧★ BOOK3

LESSON 1

学び・ことば

My Favorite Words



クラス目標の話題から、自分の好きなことばについてのスピーチへ。学年初期の自己紹介にもなります。

LESSON 2

異文化・自然理解

Finland

— Living with Forests



北欧にある森と湖の国、フィンランド。自然と共生する人々の生活と文化を紹介します。

LESSON 3

伝統文化

Rakugo Goes Overseas



日本の伝統話芸を海外に発信する英語落語家の取り組みについて、インタビューで紹介します。

LESSON 4

人間理解・社会理解

The Story of Sadako



広島で被爆した佐々木禎子さんの物語。折り鶴にこめた願いは友人たちへ、そして世界へと伝わります。

LESSON 5

伝統文化・異文化

Houses and Lives



住まいには、その地域の風土と文化が表れます。日本、中国、モンゴルの家について紹介します。

LESSON 6

社会理解

I Have a Dream



公民権運動を率いたキング牧師の生涯をおして、米国社会と人権問題について考えます。

LESSON 7

学び・人間理解

We Can Change Our World



アフリカ南部の国・マラウイで、一人の少年が、創意工夫の末に風力発電に成功する実話の物語。

LESSON 8

ことば・学び

English for Me

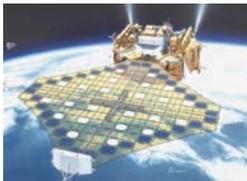


登場人物たちが、3年間学んできた英語についての見解を、6人6様の寄せ書きにします。

LET'S READ 1

自然理解

Learning from Nature



動植物が持つ自然界の知恵から、人間が学び応用した技術を紹介し、科学の目で自然に迫ります。

LET'S READ 2

社会理解・人間理解

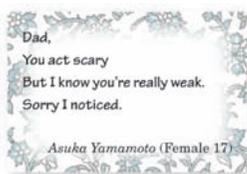
A Moment of Peace



クリスマスの日に起きたつかの間の休戦。第一次世界大戦から語り継がれる、心の交流の物語です。

Further Reading

Short Letters



福井県丸岡町(現・坂井市)の「日本一短い手紙」より。短い文章に思いが詰まった珠玉の作品です。

Further Reading

Jimmy Valentine



O. ヘンリーの名作より。更生した金庫破りのジミーが、人生の岐路で取った行動とは。

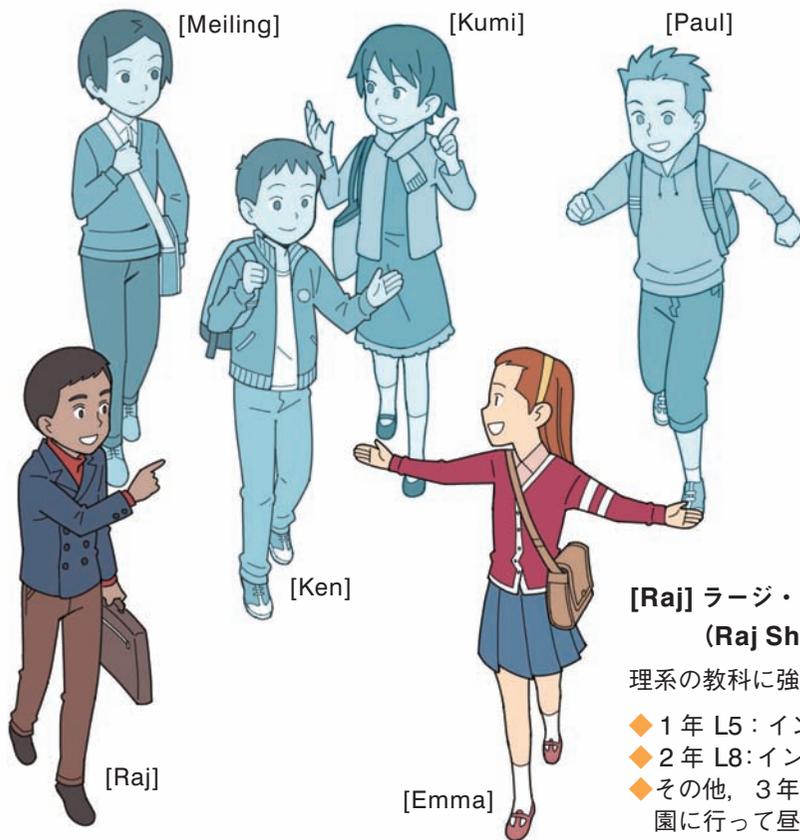
Further Reading

A Vulture and a Child



報道か、人命か。極限の状況でシャッターを押した報道写真家の選択は、倫理について考えさせます。

24NC のメインキャラクターたち ③



Emma & Raj 編

[Emma] エマ・シモンズ (Emma Simmons) [オーストラリア]

おっとり、のんびりした性格。動物大好きな女の子。

- ◆ 1年 L9：日本の四季を語る。
- ◆ 2年 L5：職業体験プログラムの感想を語る。
L7：世界の山々について発表する。
- ◆ 3年 L3：Ken から教わって小噺^{こぼなし}を披露する。
- ◆ その他、2年 L6；3年 L4 に登場するほか、宿題に困ってラージに電話をしたり(1年)、自宅に友達をよんで好きな音楽家について語ったり(2年)します。

[Raj] ラージ・シュクラ

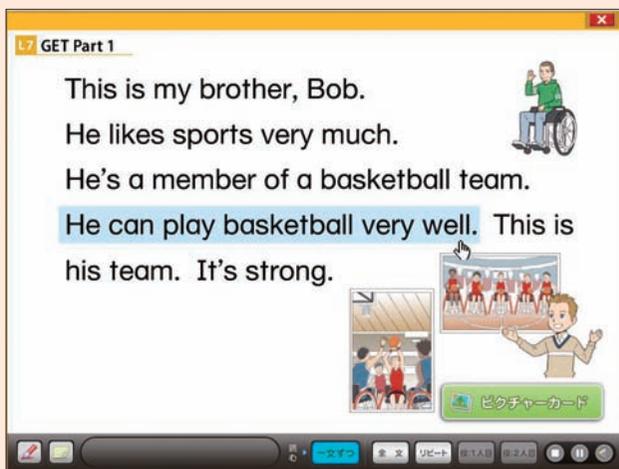
(Raj Shukla, राज शुक्ल) [インド]

理系の教科に強い、冷静沈着な努力家。

- ◆ 1年 L5：インドの人気スポーツ、カバディを語る。
- ◆ 2年 L8：インドの言語事情についてスピーチをする。
- ◆ その他、3年 L8 に登場するほか、クラスの仲間と公園に行って昼ごはんを食べたり(1年)します。

『NEW CROWN 指導用 デジタルテキスト』のご案内

- 24 NEW CROWN の構成に完全準拠。
- 電子情報ボード (e 黒板、電子黒板) などを使った一斉授業に好適。
- 「使いやすさ」を徹底追求。先生方からの多くのご意見を取り入れ、機能面やデザインに配慮。
- 教科書の紙面の提示、本文やイラスト・写真の拡大に加え、音声やフラッシュカード、ピクチャーカード、資料映像などの機能も利用可能。さらには、音声を聞き、繰り返し発話練習して、基礎基本を身につけることも。
- ふだんの授業に、今すぐ、無理なく導入できます！



三省堂

<http://www.sanseido.co.jp/>

- | | | |
|---------|---|--------------------------------------|
| □ 本社 | 〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14 | TEL. 03 (3230) 9411 (編集案内)・9551 (営業) |
| | | TEL. 03 (3230) 9422 (英語教科書編集部) |
| □ 大阪支社 | 〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地 2-5-3 | TEL. 06 (6341) 2177 |
| □ 名古屋支社 | 〒460-0008 名古屋市中区栄 3-25-43 瑞穂ビル 4F | TEL. 052 (252) 9211・9212 |
| □ 九州支社 | 〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1 | TEL. 092 (531) 1531・1532 |
| □ 札幌営業所 | 〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15ビル 3F | TEL. 011 (616) 8722 |